

# 訪日観光促進に向けた 調査および研究の課題 は何か？

東京大学大学院工学系研究科

清水 哲夫

[sim@civil.t.u-tokyo.ac.jp](mailto:sim@civil.t.u-tokyo.ac.jp)

# 林氏講演での論点

1. 日本人宿泊観光発生回数の安定・減少傾向を踏まえて何をすべきなのか？ 訪日観光促進
2. 観光に関する学術研究は何をすべきか？ 観光地選択メカニズムの追求
3. 上記の問題に対応するために我が国の観光統計はどうあるべきか？ 目的と用途の明確化, 定期性確保と規模拡大

# 観光行政・産業は何に注目すべきか？

- 人口減少率を超える原単位の増加率は達成可能か？                      or   x
- 新規インバウンド観光客数を増加させることは可能か？      10年くらいは      , その後は
- 日本旅行経験者をリピートさせることは可能か？  
                                 or                      or   x

# 我が国のインバウンド観光振興政策

- ビジット・ジャパン・キャンペーン
  - 現地機関設置, 観光親善大使任命, 観光業界視察誘致, 修学旅行誘致, 観光展出展, PR, ...
- 自治体・業界連携の陳情団派遣
- 短期勝負の総力戦か？
- マーケット動向はきちんと掴んでるのか？
- Sustainabilityの観点にたった戦略はあるのか？

# (国際観光)統計の意義

1. 現状把握
2. トレンド把握
3. 現象要因特定
4. 問題発見
5. 将来予測
6. 必要施策抽出

# 統計の質を下げる観光の特性

- 定義自体があいまい
- 非日常かつ低頻度の現象
- 過去の経験の影響が強い
- 目的地の選択肢があまりにも多い
- 目的地決定の要因があまりにも多岐に渡る

# 今後の国際観光調査をどう考えるか？

- 着地ベースの調査だけでなく**発地ベースの調査**も可能であれば実施すべき
  - 主要マーケット国における定期的な調査
- 国のおおざっぱな調査と個別施設の詳細調査の**中間レベルの情報量を持つ調査**も考えるべき
  - 旅行者の渡航計画の決定要因を詳細に分析して、最低限どの調査項目を設定すればよいか検討
- 現状追認型調査でなく**ニーズ発掘型の調査**を実施すべき

- ITを活用した外国人観光客の**行動追跡調査**を実施すべき
  - 協力へのインセンティブの提供
- 観光統計の目的と用途の明確化 , 定期性確保と規模拡大が課題

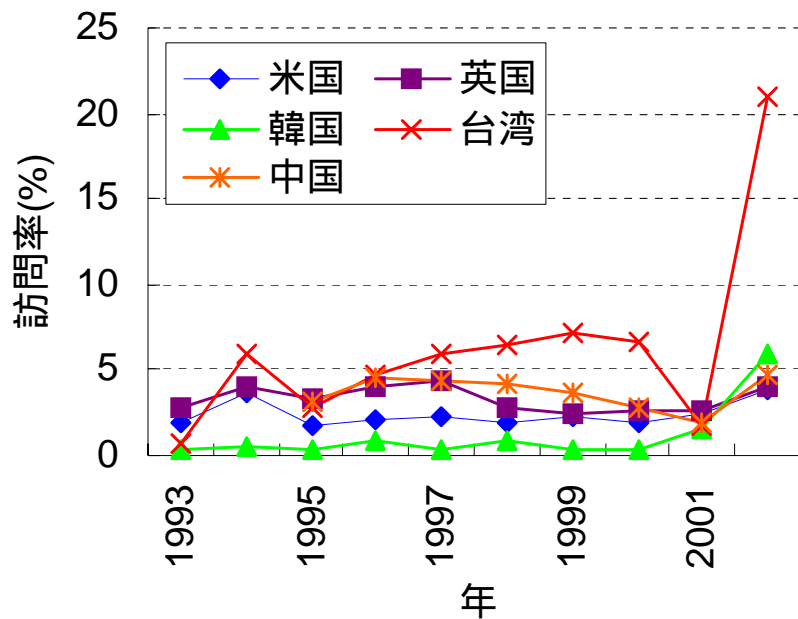


# 我が国のインバウンド観光の状況

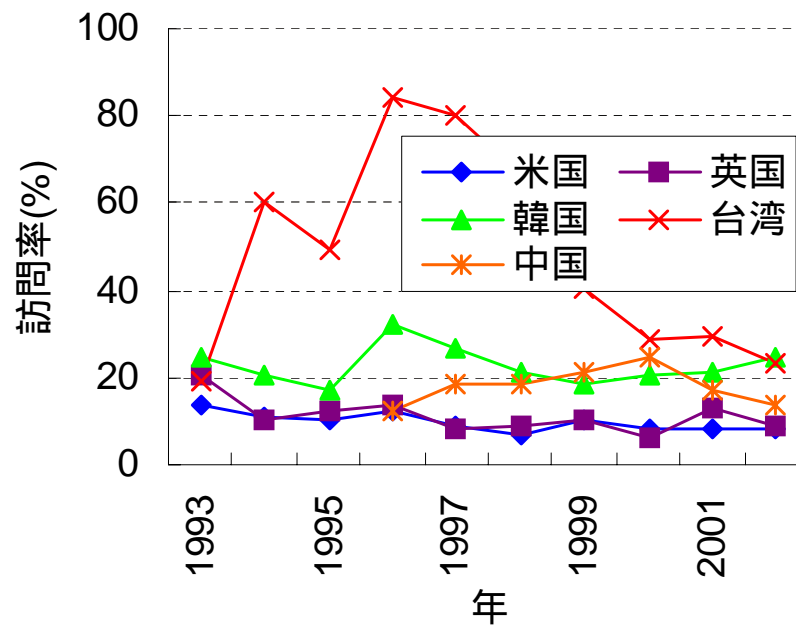
- 日本人出国者数と外国人入国者数の著しい格差
- アジア近隣諸国からの観光客の経年的増加
  - 韓国・台湾 中国
- 大都市圏から周辺地域へ拡大
  - 東京・大阪・京都 九州 北海道 東北・北陸

# 地方への国籍別訪問状況

## 北海道



## 九州7県



訪日外国人旅行者調査(JNTO)より作成

訪問率: 調査サンプルの何%が各都道府県を訪れたかを示す指標

# 訪日観光客増加のアプローチ

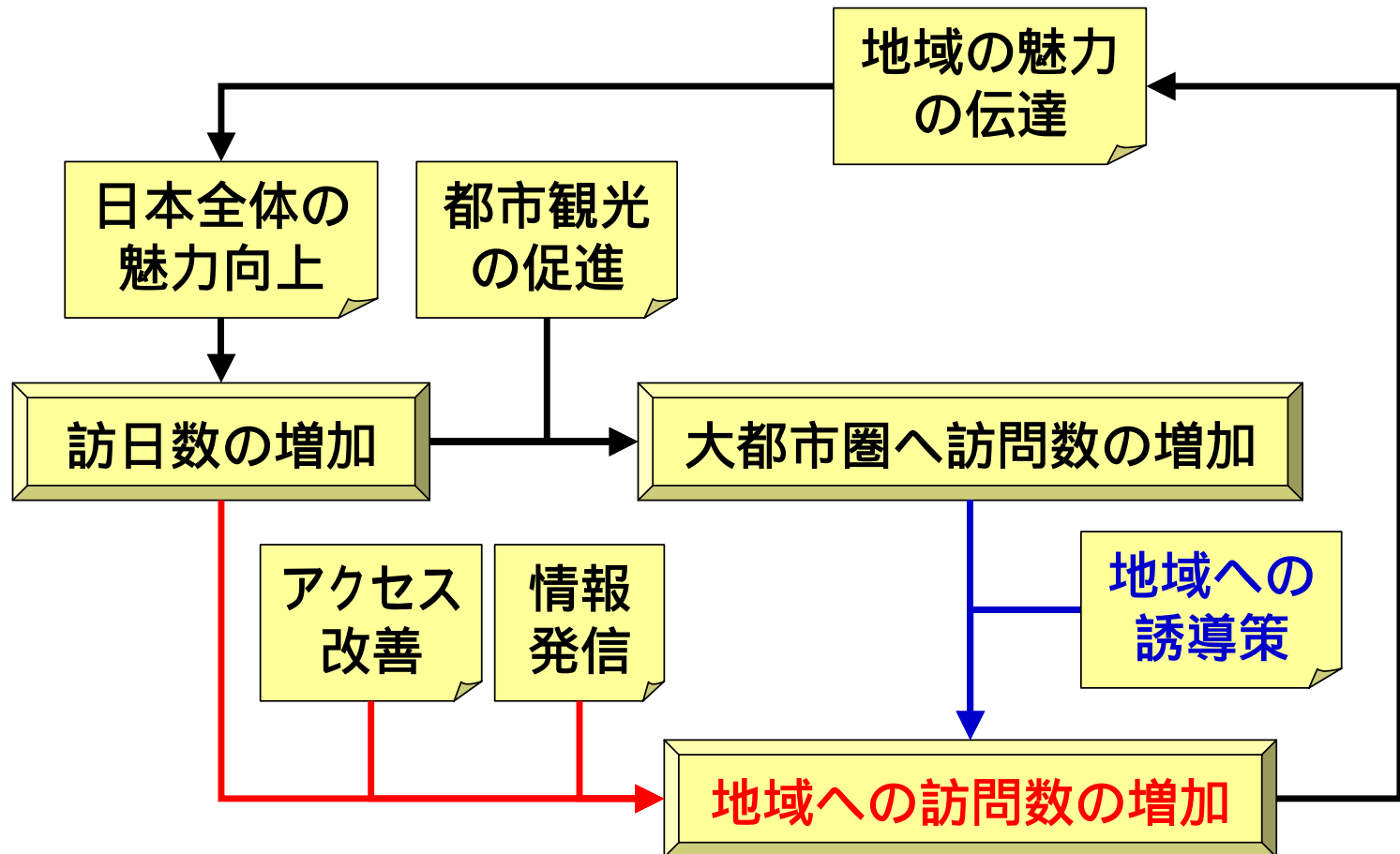
## ■ 新規マーケットの掘り起こし

- 韓国・台湾 中国・オーストラリア ？
- アジア経済成長による富裕層の拡大

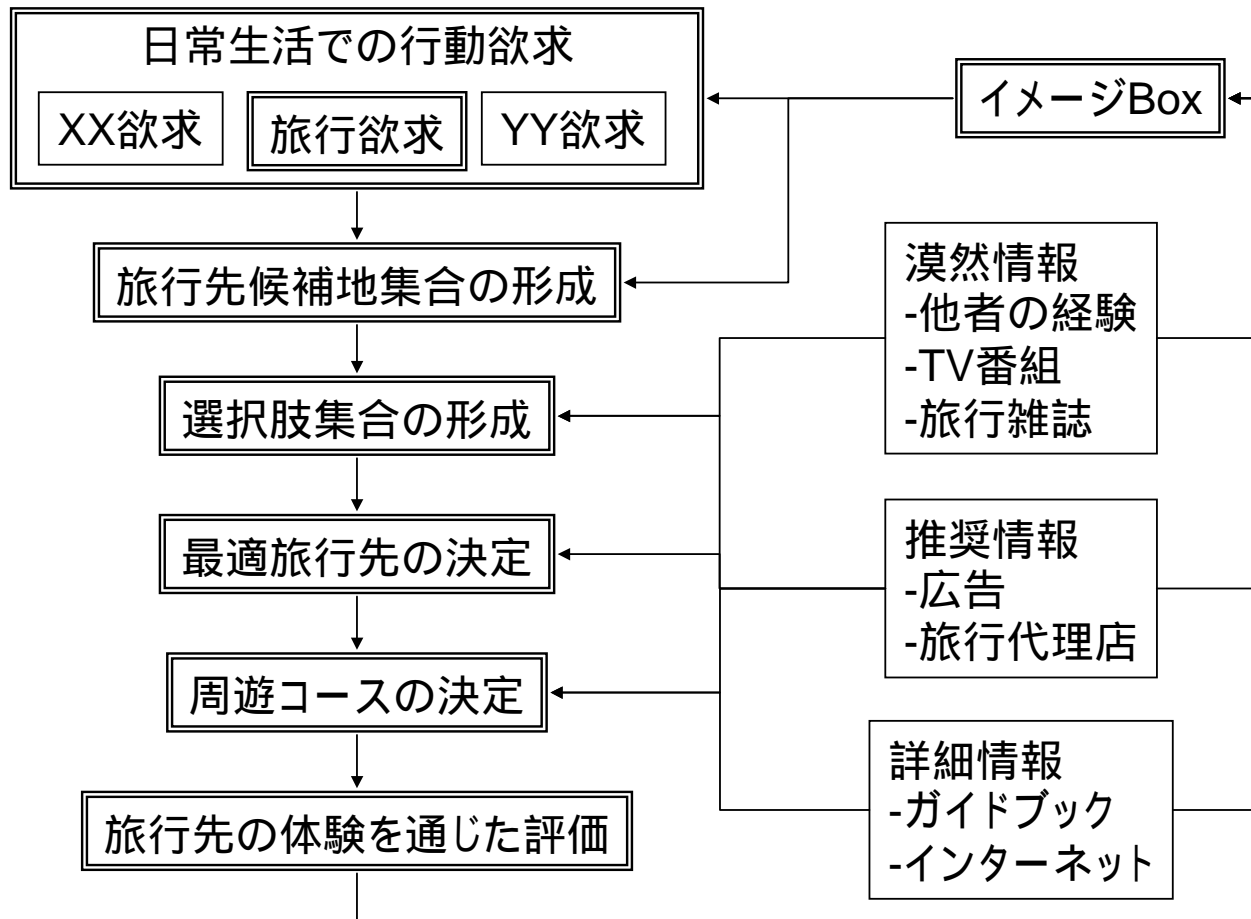
## ■ リピーターの形成

- 個人旅行時代の到来
- 情報洪水時代の到来

# 地方へのリピートの誘導戦略



# 海外旅行の決定プロセスのモデル化



# 渡航先エリアの想起領域



# インバウンド観光プロモーションに感じる問題

- 過度に単一デスティネーションに立脚したプロモーションを展開している。
  - 各県や各市が協調せずに独立に陳情
  - 思いがけない組み合わせが商品となる例
- 多くの観光エリアが単独でデスティネーションになろうとしている。
  - 主要デスティネーションになれない観光エリアがほとんど
- 訪日観光客に国内の他エリアの魅力を知ってもらうための努力が著しく足りない。

# 韓国旅行代理店のヒアリングから

- 「多くの韓国人観光客は、一度札幌に行ってしまうと、それだけで北海道全体を旅したように感じてしまうのです。これでは、いくら北海道内の別の都市がプロモーションにやってきて我々が商品として魅力的であると感じても商売になりません。」
- 「秋田は紅葉が美しいので商品価値はあるのですが、単独では厳しいので青森と組み合わせます。韓国からの日本旅行は3泊4日が主力(台湾は5～6泊が主力)なので、このくらいの範囲が限界です。」
- 「日本の観光商品は都市型の方が人気があります。」



# これまで実施したインバウンド観光研究

1. 台湾人の海外旅行経験と主要観光地の評価に関する調査
2. 台湾人の北海道来訪時の旅行計画と行動に関する調査
3. 地方における外国人によるドライブ観光振興のためのプレ調査
4. 我が国に足跡を残した外国人情報の調査

# 台湾人の海外旅行経験と主要観光地の評価に関する調査

- 2002年10月に日系百貨店の北海道物産展にて
  - 410サンプル
  - 女性70%程度, 30代以下50%以上
  
- 調査項目
  - 海外旅行経験
  - 東アジア主要観光地の評価
  - 旅行決定時の参照情報源

# 近年の台湾人渡航先の特徴

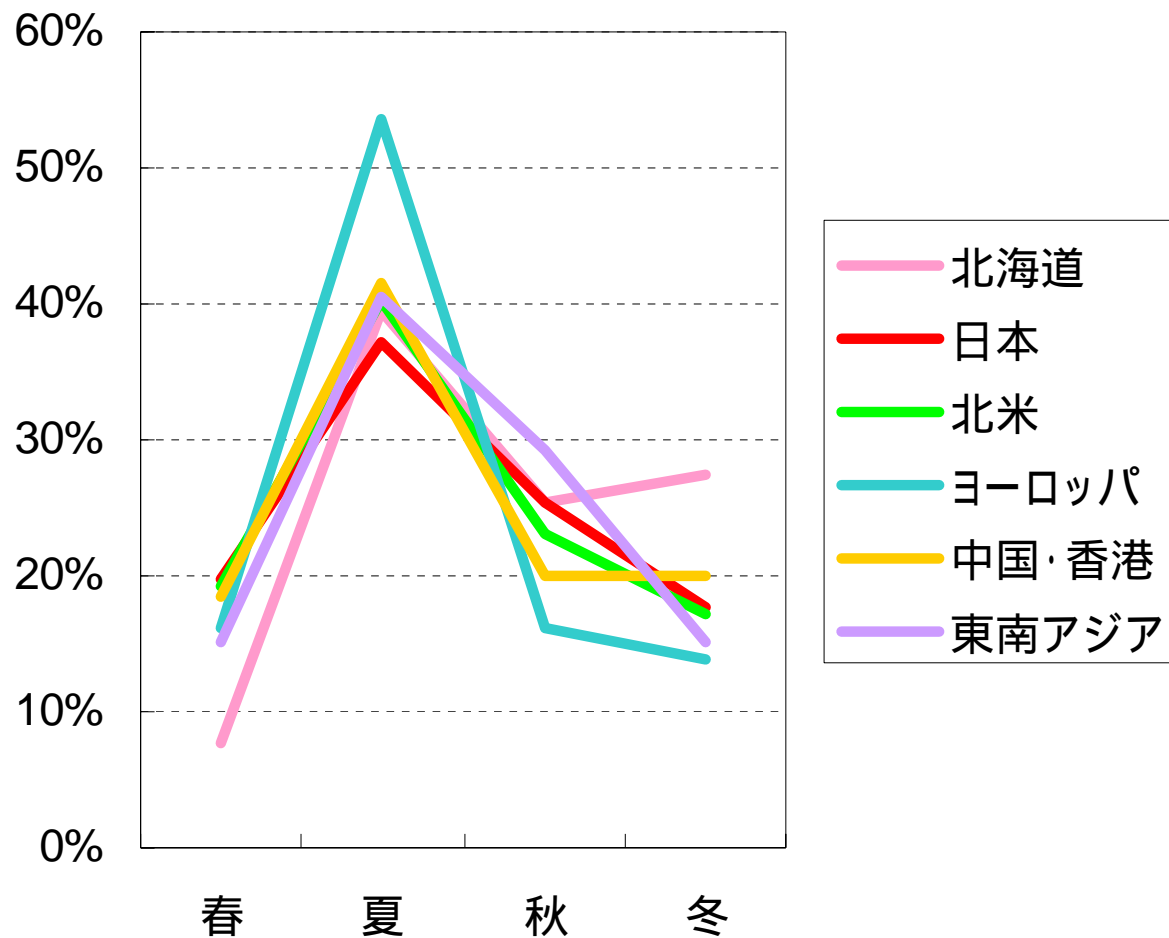
## 一番最近の渡航先と時期

	日本	中国	香港	韓国	東南アジア	オセアニア	北米	欧州	総計
～1989	4	2	1	2	5	0	5	0	19
1990～1994	19	5	0	0	9	2	4	2	41
1995～1999	3	0	1	0	2	0	1	4	11
2000	10	0	0	0	4	1	0	3	18
2001	32	1	1	5	12	1	10	5	67
2002	71	23	12	7	19	1	16	13	162
総計	139	31	15	14	51	5	36	27	318

## 過去2回の渡航先の組み合わせ

前回	前々回											
	日本	中国	香港	韓国	タイ	マレーシア	シンガポール	インドネシア	アメリカ	カナダ	ヨーロッパ	総計
日本	67	29	11	4	8	1	3	23	30	12	17	151
中国	11	9	1	0	2	2	2	4	6	2	4	34
香港	8	0	2	1	2	1	0	0	1	0	2	20
韓国	8	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	15
タイ	5	1	2	0	2	2	1	2	2	1	1	24
マレーシア	0	0	0	1	2	1	1	0	0	0	0	8
シンガポール	4	0	1	1	1	1	1	0	1	0	1	13
インドネシア	7	0	1	0	3	3	0	2	3	0	2	17
アメリカ	9	1	0	0	0	1	0	1	6	2	4	33
カナダ	5	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	9
ヨーロッパ	8	3	2	0	1	0	1	2	3	1	3	30
総計	139	45	18	6	23	12	9	34	57	18	34	254

# 渡航先別の渡航時期



# 渡航先選択の性向

クラス	行ってみたいと答えた人数								人数
	北海道	東京	京都	大阪	九州	沖縄	ソウル	香港	
買い物型	0	1	0	0	0	0	0	1	1
特徴的観光地型	42	0	15	0	0	0	0	0	42
日本びいき型	134	122	126	118	81	58	0	0	148
北方型	13	0	3	1	0	0	14	0	14
都市観光型	18	11	0	1	3	9	19	14	22
非中華型	60	46	38	34	33	26	39	0	60
全体選択型	103	96	84	82	89	76	54	100	106

# 北海道来訪経験時の代替候補地

他は検討せず	31
日本国外の観光地	13
日本国内の観光地	34
日本国内外の観光地	36

70サンプル

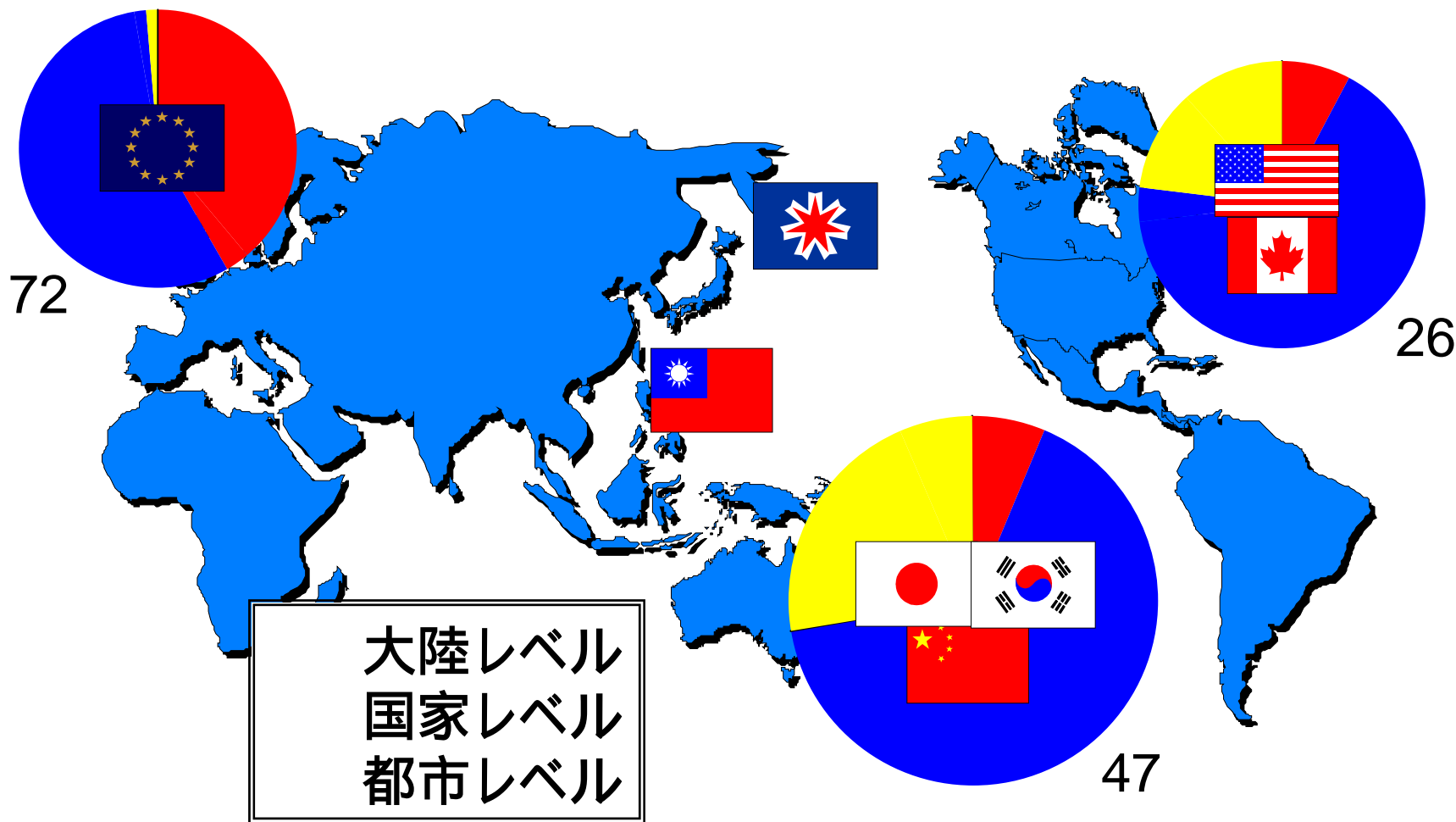
49サンプル

東京	18
京都	14
大阪	12
九州	13
沖縄	3
東北	6
北陸	5
米国	8
カナダ	4
欧州	11
フランス	6
イタリア	4
ドイツ	2
NZ	2
中国	3

# 台湾人の北海道来訪時の旅行計画と行動に関する調査

- 2003年12月に新千歳空港の国際線カウンターにて
  - 325サンプル
  - 女性70%, 30代以下70%
  - ほとんどが団体旅行に参加する富裕層
  
- 調査項目
  - 旅行計画時に想起した代替候補地とその要素評価
  - 意志決定段階で参照した情報源

# 想起した代替候補地の分布と解像度



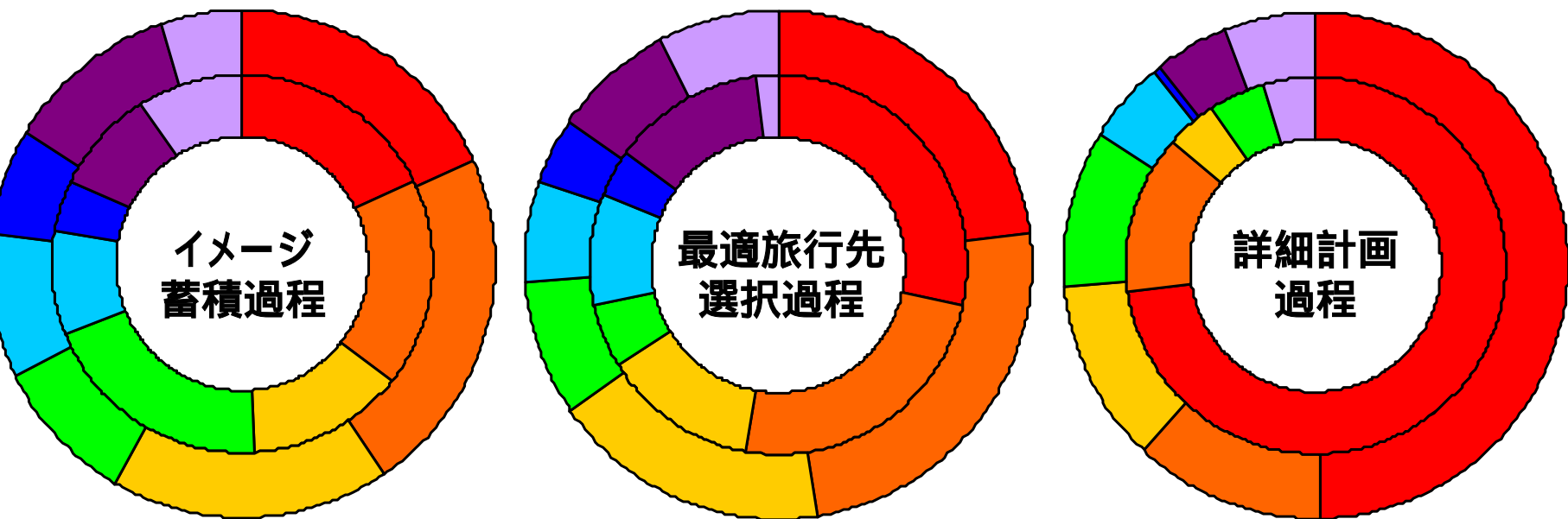


# 旅行経験と渡航先想起レベル



大陸レベル  
国家レベル  
都市レベル

# 旅行実施までに参考にした情報源

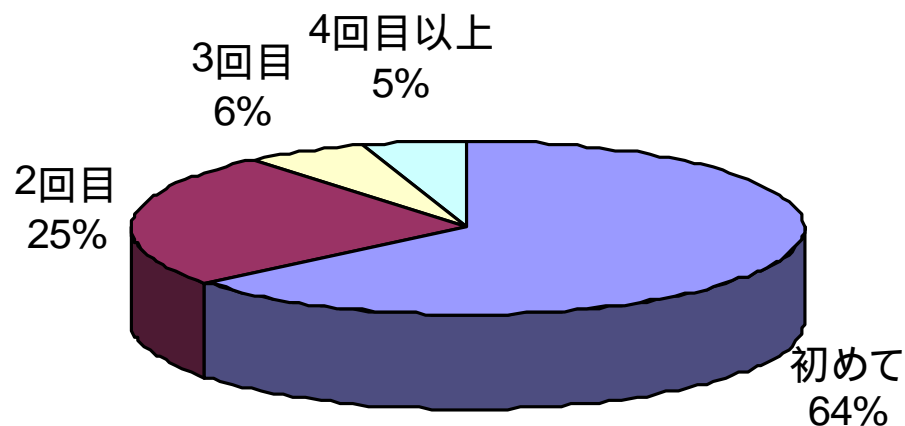


内円: 海外旅行初めて    外円: 海外旅行2回目以上

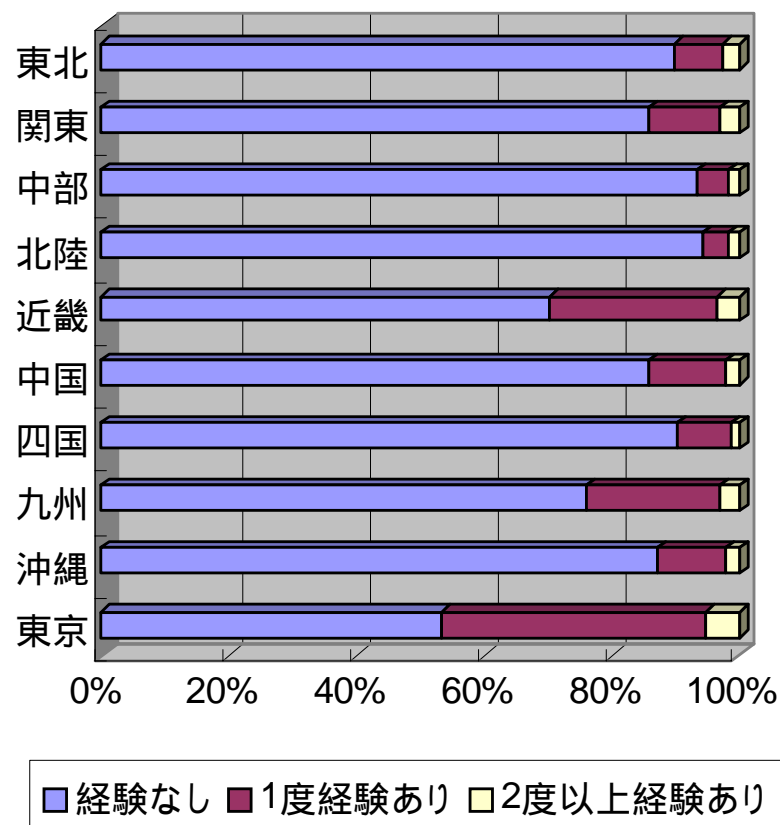


# リピート来訪の状況

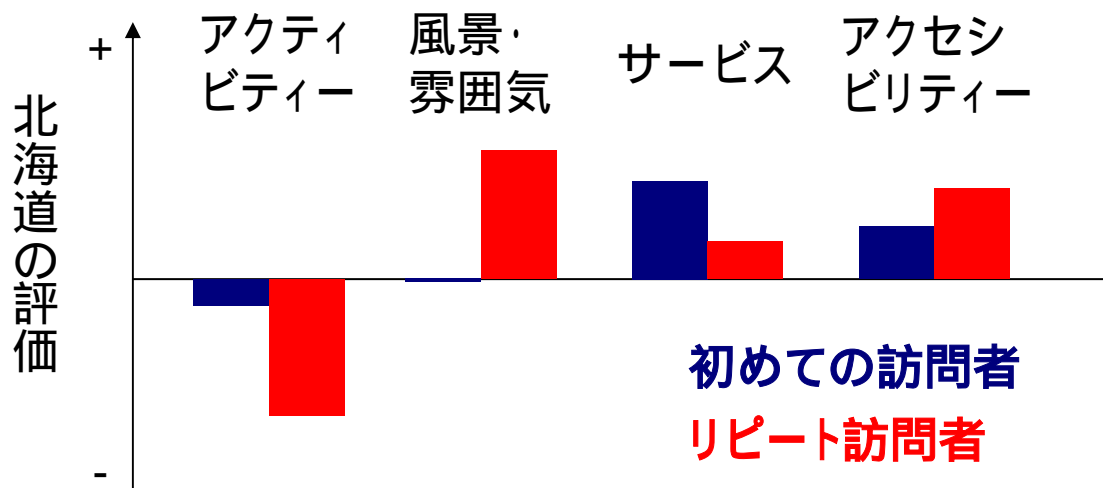
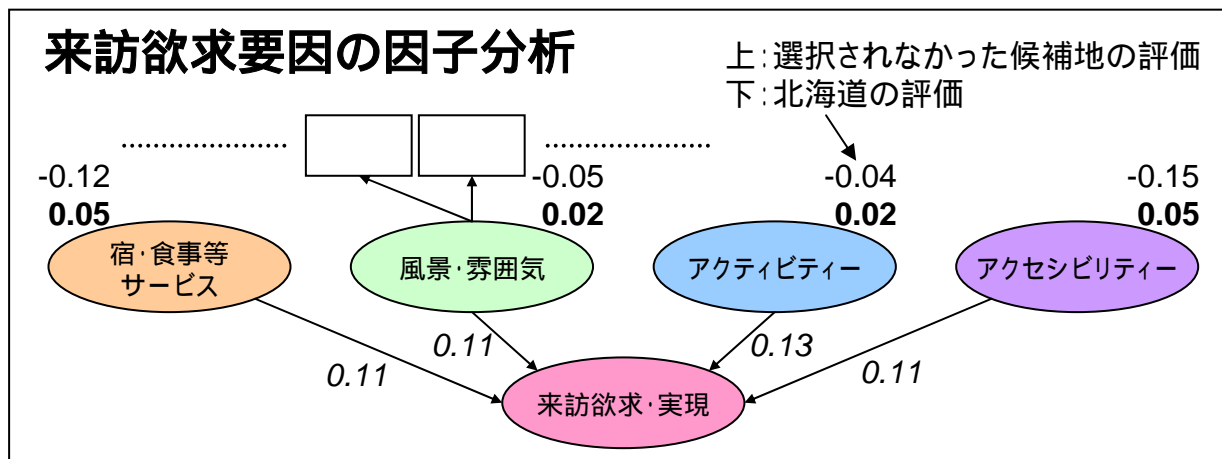
## 北海道への来訪経験



## 地域別の来訪経験



# 渡航先評価の要因



# 地方における外国人によるドライブ観光振興のためのプレ調査

- 2004年10月実施(北海道開発局, JTBと合同)
- 韓国人50組のモニターを招聘し, 2泊3日でレンタカーを貸し出して道央地区を走行させる
  - 立ち寄り先の決定プロセスと実行動
  - GPSによる軌跡調査
  - ハングルによるパンフレット作成

# ドライブ観光促進の意義

- 比較的マイナーな観光地への来訪ニーズに対応できる
  - 都市から離れている景勝地等の新たな観光資源を活用できる
  - 好きなように旅行行程を設計できる
- 
- 個人旅行の一層の促進につながる可能性が高い
  - 団体旅行での来訪が望めない観光スポットの来訪促進が可能である



# 지토세 출발, 시코쓰코 호수로

여름의 향연으로 가득 찬 시코쓰코 호수에서 시작되는 드라이브는 드라이브를 떠나 "지토세" 안에 전시관, 카페 등의 방문객을 위한 편의시설을 갖춘 다목적 시코쓰코 호수에서 즐길 수 있습니다. 또한 "시코쓰코"라고 불리는 이 호수는 주변의 자연과 조화를 이루는 녹음의 미감이 자못 신비로움이 있어 많은 관광객들이 방문합니다. 게다가 나무를 사면 향상을 얻어 판매하는 시코쓰코 호수가 모습을 드러냅니다. 여기에서는 주변의 아름다운 풍경과 호수의 풍경을 즐기며 상쾌한 휴식을 취할 수 있습니다.

1. 지토세 출발 코스

지토세 출발 코스



무성한 나무들이 만들어 내는 녹음이 터널을 이루면 햇빛이 한두번씩 일렁이는 아름다운 시코쓰코 호수가 저쪽을 드러냅니다.



**276 국도276호** Dramatic Drive Route 6

**마루코마온천** 7

시코쓰코 호수에서 출발하는 드라이브는 드라이브를 떠나 "지토세" 안에 전시관, 카페 등의 방문객을 위한 편의시설을 갖춘 다목적 시코쓰코 호수에서 즐길 수 있습니다. 또한 "시코쓰코"라고 불리는 이 호수는 주변의 자연과 조화를 이루는 녹음의 미감이 자못 신비로움이 있어 많은 관광객들이 방문합니다. 게다가 나무를 사면 향상을 얻어 판매하는 시코쓰코 호수가 모습을 드러냅니다. 여기에서는 주변의 아름다운 풍경과 호수의 풍경을 즐기며 상쾌한 휴식을 취할 수 있습니다.

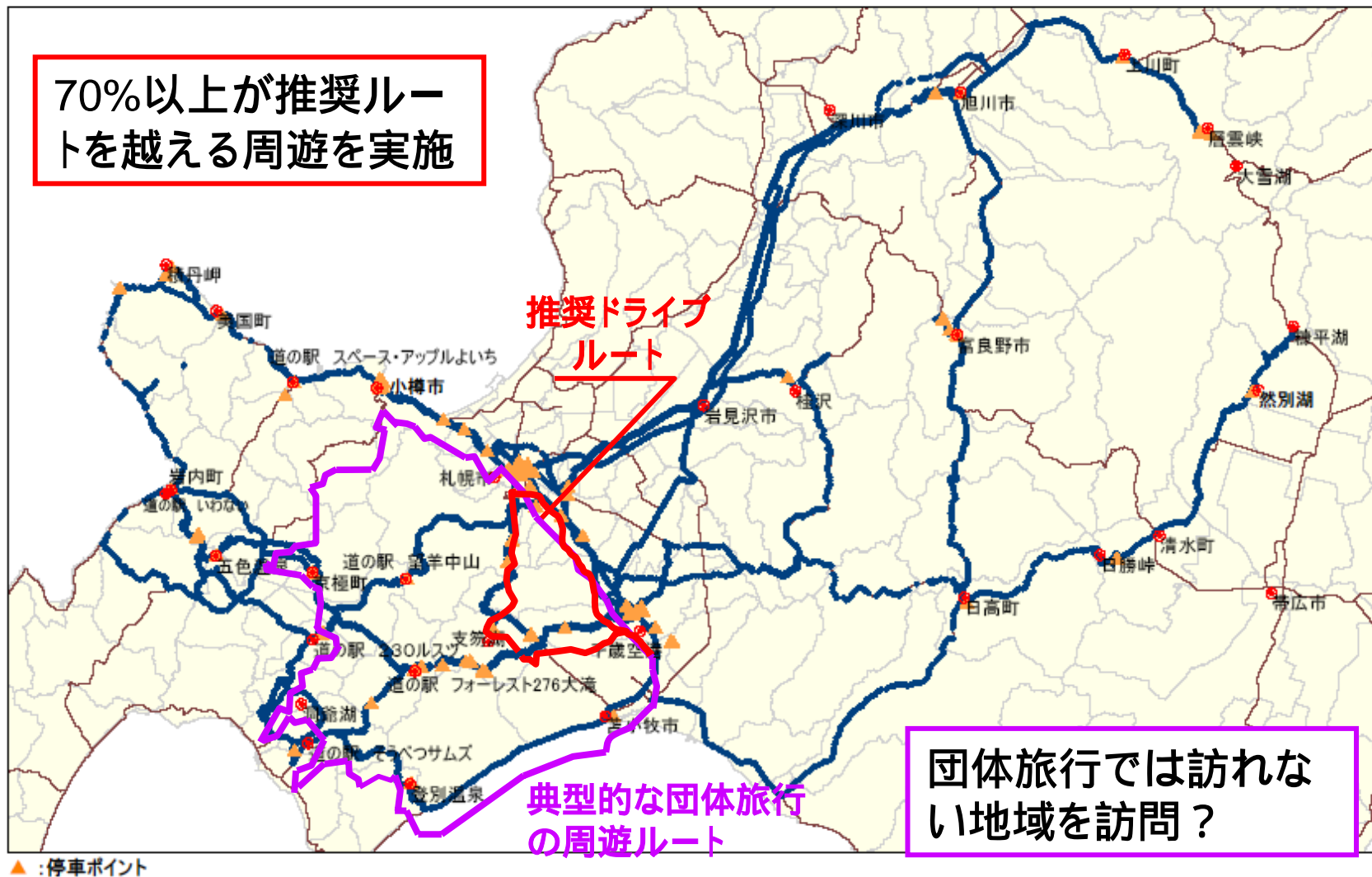






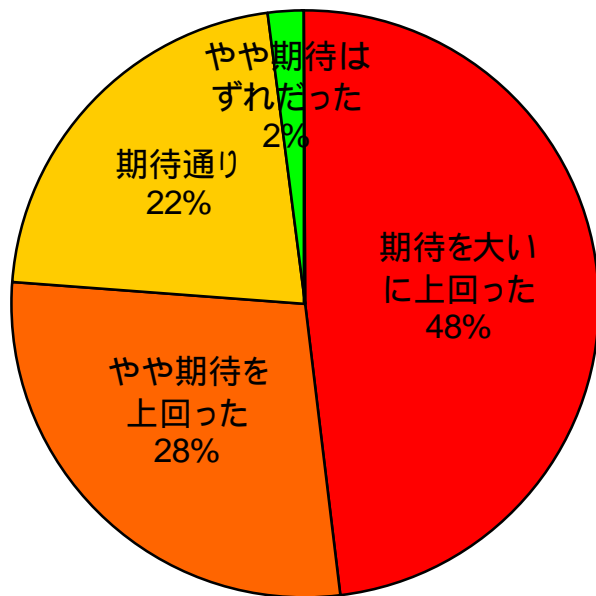


# 全モニターの周遊ルート

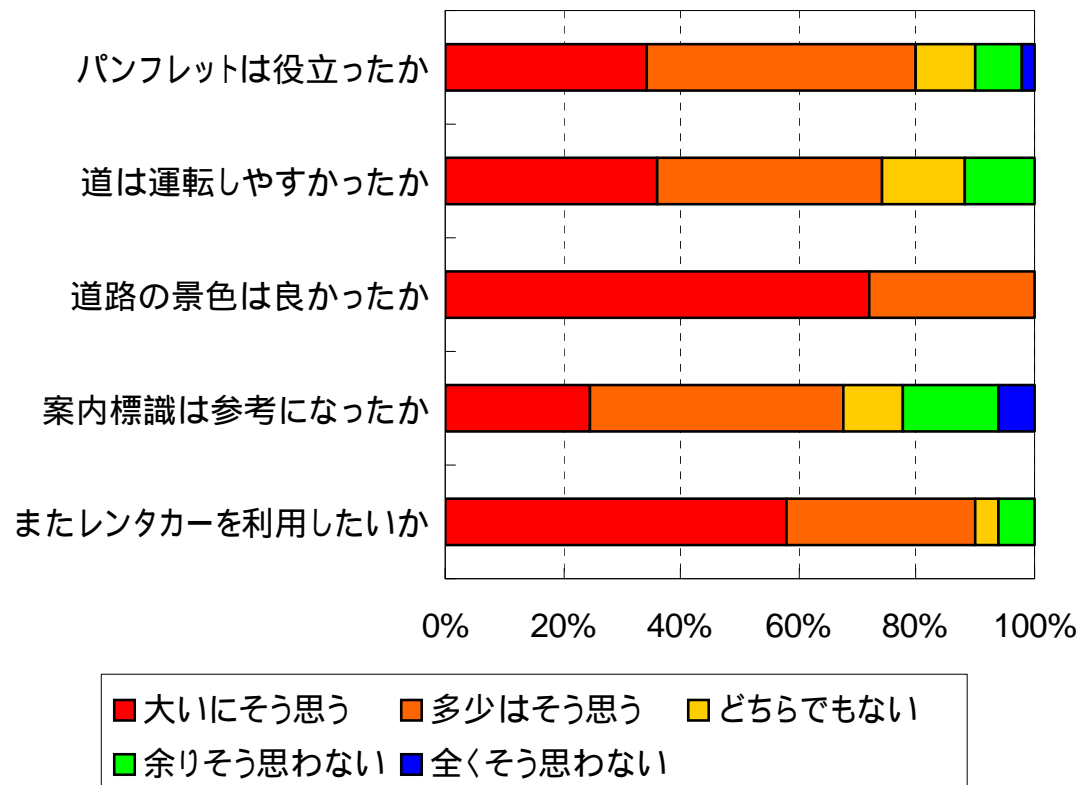


# ドライブ観光の評価

## 今回の旅行の評価

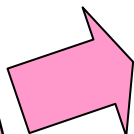
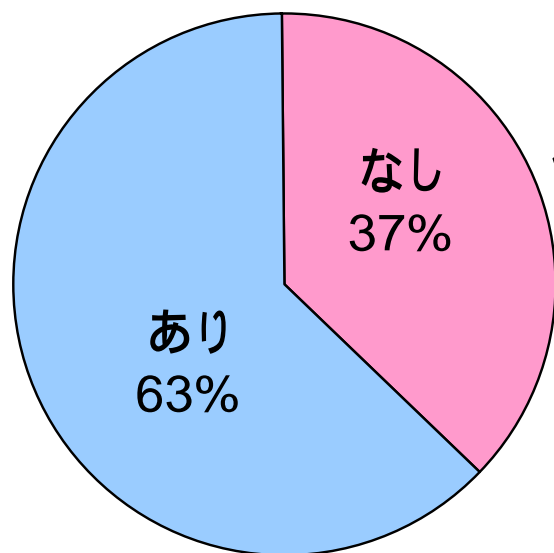


## ドライブ観光の評価

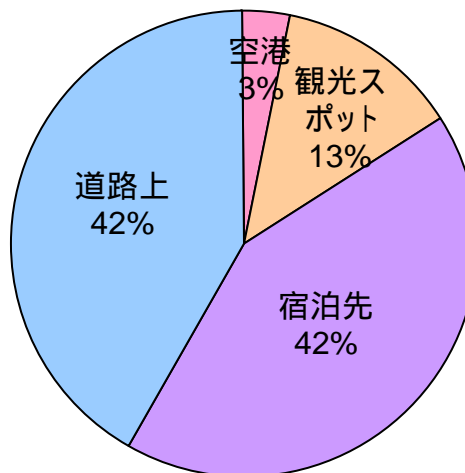


# 立ち寄り先の分析

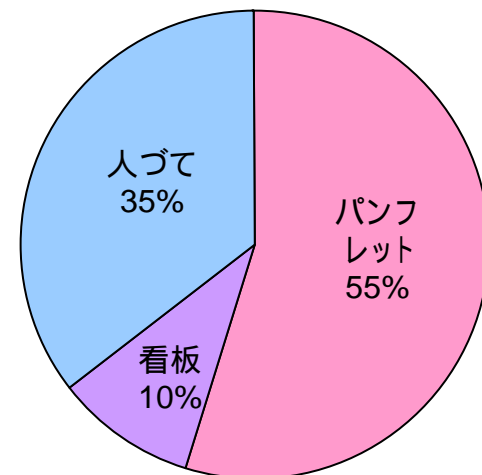
訪問地への立ち寄り  
事前に計画していたか？



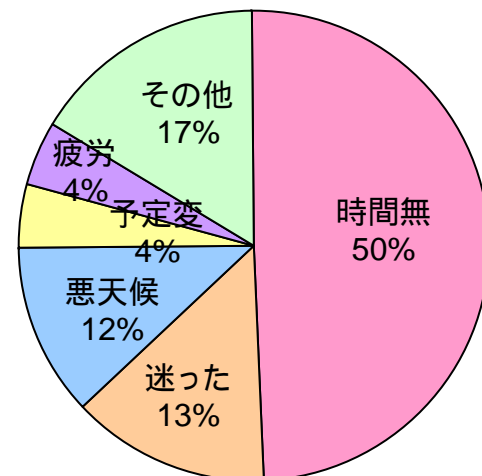
情報入手先



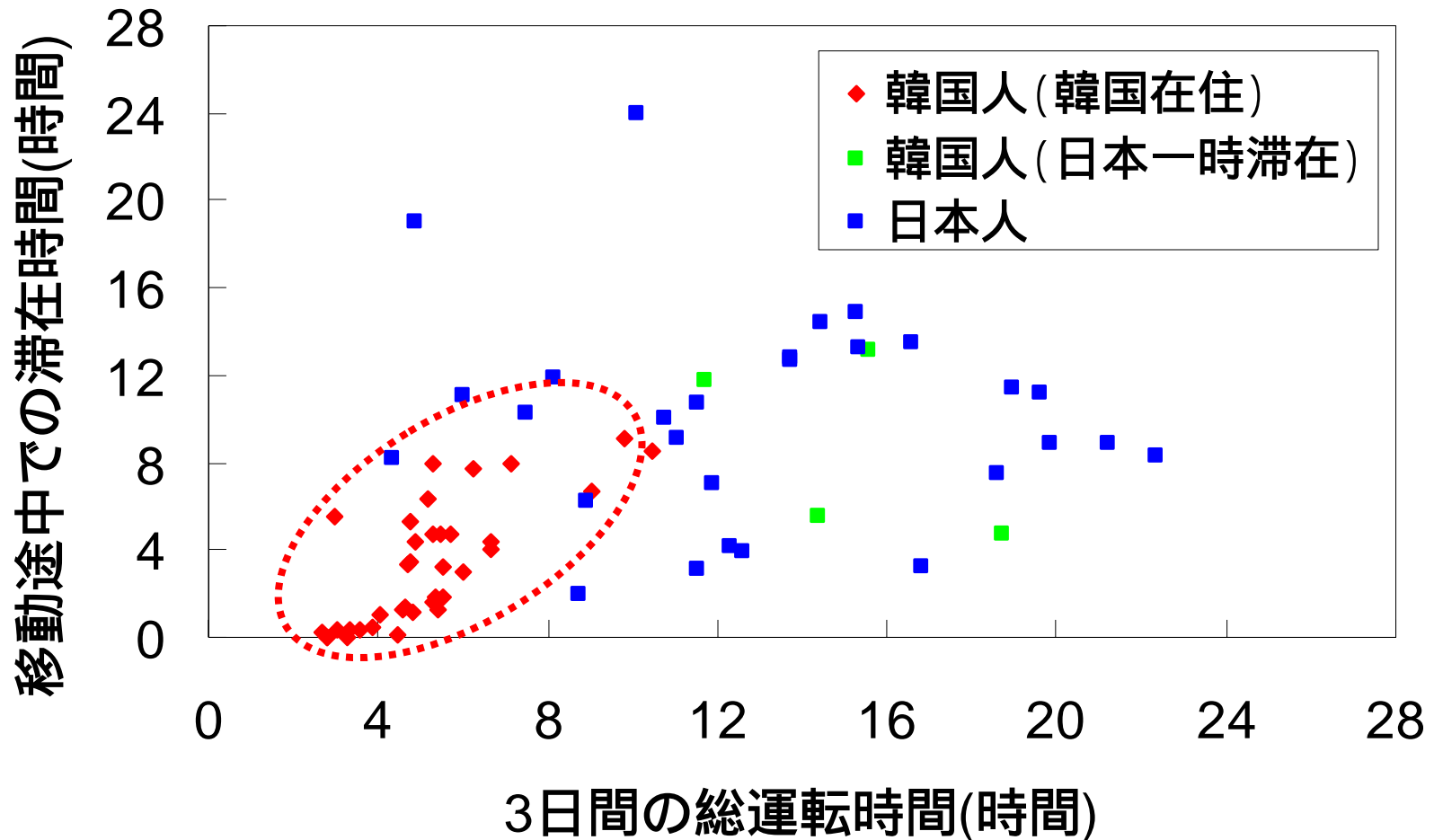
情報入手手段



予定していた訪問地への  
立ち寄りをあきらめた理由



# 日本人と韓国人の比較



\* 日本人のデータ:観光に対する道路整備効果検討業務～報告書(国土交通省北海道開発局,2002)



# 我が国に足跡を残した外国人情報の調査

⑤ その人物または集団が活躍した時代／年代を分かる範囲でお書き下さい。

時代／年代： \_\_\_\_\_

⑥ その人物または集団の職業、分野、活動内容をお書き下さい。(職種にチェックをし、以下のa、b・・・にお答え下さい。)

( ) 技術者・学者・研究者

a. 分野

建築・土木	交通	通信	軍事	医学	薬学	農学	自然科学
法律	政治	外交	経済	金融・財政	社会学	教育	開拓
地方文化	文学	言語	哲学	歴史・考古学	地理学	人文科学	

その他 ( ) \_\_\_\_\_

あてはまる分野に○をつけてください

b. 細かい専門分野 (港湾建設、経済政策・・・)： \_\_\_\_\_

c. 携わったプロジェクト等： \_\_\_\_\_

d. その他の日本での活動： \_\_\_\_\_

( ) 芸術家・作家・スポーツ選手

a. 分野

音楽 ( )	絵画 ( )
立体造形 ( )	書道家 建築家 映画監督
舞踊	スポーツ選手 ( )

その他 ( ) \_\_\_\_\_

あてはまる分野に○をつけてください。( )は細かい分野・種目(指揮者、彫刻家・・・)

b. 作品・公演・記録等： \_\_\_\_\_

c. その他の日本での活動： \_\_\_\_\_

2 - 裏

## 自治体・大使館へのアンケート調査

〈様式 2-2〉

( ) 日本にある物、ことを伝えた人 (野球、陶器、宗教など。創作などの活動ではなく、伝えた人)

a. 日本に伝えたもの： \_\_\_\_\_

b. どのように伝えたか、日本での活動： \_\_\_\_\_

( ☒ ) 人的交流 (提携都市間交流や文化交流など)・既知

a. 日本での活動： 豊田清隆 大津商船所長官の要請を受け、札幌商学校(後の商大)初代校長に就任。それ以外教員精神を教育の基本として指導。その人徳教育、特許教育は後世に大きな影響を与え、思ひ界に大きな影響を与えた。帰国の際に大津大学で「大津」

( ) その他 (具体的な) \_\_\_\_\_

a. 日本での活動： (豊田大津を模して)の名を付けて教員と別れた。

ご紹介下さい。

●書籍名 クラークと大津

著者名 森田信彦 出版社名 大津 (1956.2)

●書籍名 クラークと大津の弟子たち

著者名 大津正健 出版社名 図書刊行会 (1923.4)

●書籍名 クラーク、大津と大津

著者名 大津正健 出版社名 大津大学図書刊行会 (1928.4)

●書籍名 クラーク 1年

著者名 大津正健 出版社名 昭和堂 (1929.8)

3 - 表

都道府県	市町村	名前	国	地方・都市	時代・年代	職業	活動	みどころ
北海道	枝幸町	ダビッド・トッド 博士	アメリカ	マサチューセ ッツ州	1896年	天文学者	日食の観測	日食観測記念碑
北海道	小樽市	ジョセフ・ユリ・ クロフォード	アメリカ	ペンシルバニ ア州	1878年～1 880年	土木技師	小樽～札幌間に鉄道を開通さ せた	小樽交通記念館
北海道	北広島市	ウィリアム・スミ ス・クラーク博 士	アメリカ	マサチューセ ッツ州	1876年～1 877年	農学者、 教育者	北海道開拓期における欧米式 農業の導入など	クラーク博士記念碑
北海道	札幌市	ウィリアム・スミ ス・クラーク	アメリカ	マサチューセ ッツ州 アッシ ュフィールド	1876年～1 877年	農学者	札幌農民学校初代教授	クラーク像、丘の上の クラーク像
北海道	札幌市	イサム・ノグチ	アメリカ	ロスアンゼルス	1988年	彫刻家	モエレ沼公園の設計、ブラック・ スライド・マントラ製作	モエレ沼公園、ブラッ ク・スライド・マントラ
北海道	札幌市	ホーレス・ケプ ロン	アメリカ	マサチューセ ッツ州	1871年～1 875年	北海道開 拓顧問	開拓期の指導	ホーレス・ケプロンの 像
北海道	札幌市			オハイオ州 ス	1876年～1			エドウィン・ダン像、エ
青森県	弘前市							
秋田県	大館市							

市区町村への調査結果に文献・ウェブサイトでの  
調査，大使館への調査結果を加えて**155人**，  
**延べ234件**の情報が得られ，データベースを作成

9件がイサベラ・バード

10件がウォルター・ウェストン

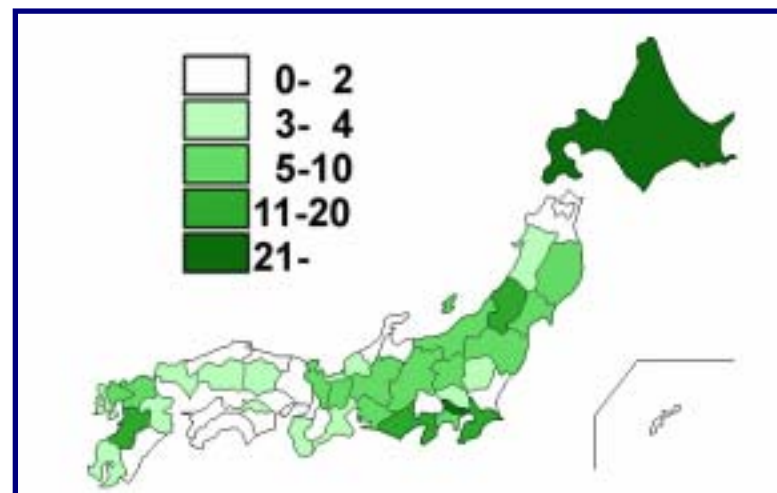
14件がヨハネス・デ・レーケ

お雇外国人が東京に集中



北海道のアメリカ人に関する情報(14件, 道央に10件)は他の地方・国の情報と比較して多い

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	合計
アメリカ	14	7	14	5	6	1	2	3	52
イギリス	5	11	17	18	1	3	1	7	63
ドイツ		2	10	5	3	2	1	3	24
オランダ	1	5	4	9	3	1		3	26
フランス		3	3	1		1	1	3	12
スペイン		2			1	1		2	6
韓国			2		3	1		5	11
中国		2		1	5			3	11
台湾								1	1
その他	1	1	4	14	1	3	1	4	29
合計	21	33	54	51	23	13	6	34	234



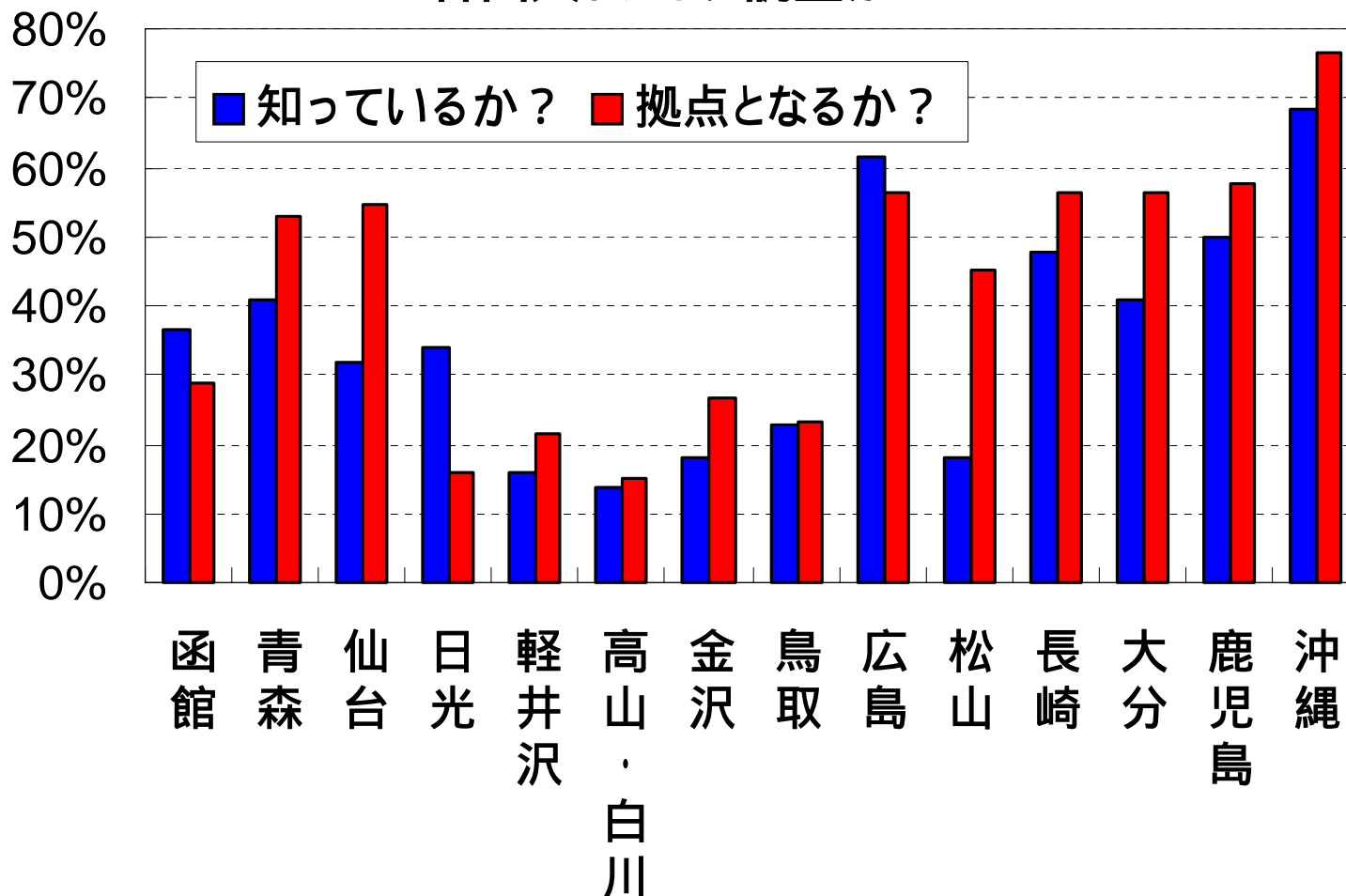


# 今後重要と思われる国際観光の研究

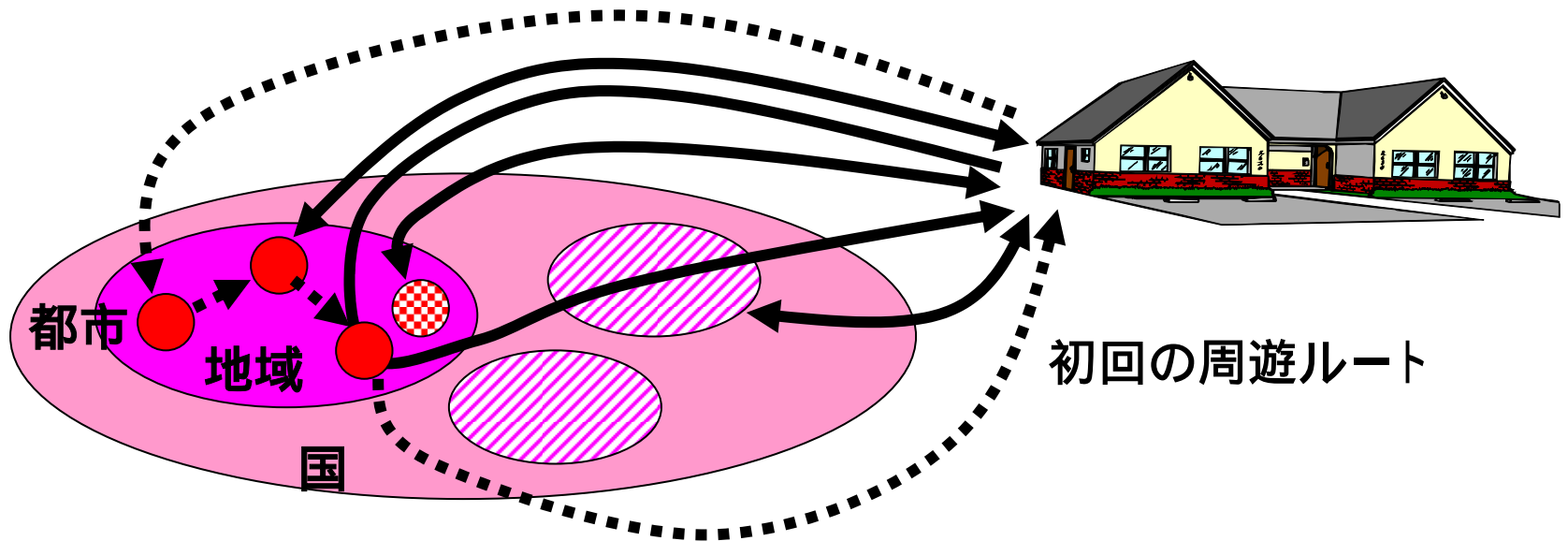
1. 渡航先想起のメカニズムと解像度の解明
2. 観光地間の競合・補完関係の解明
3. リピート行動メカニズムの解明
4. オフサイト・オンサイト観光情報提供のあり方

# 観光地間の競合・補完関係の解明

韓国人ドライブ調査から

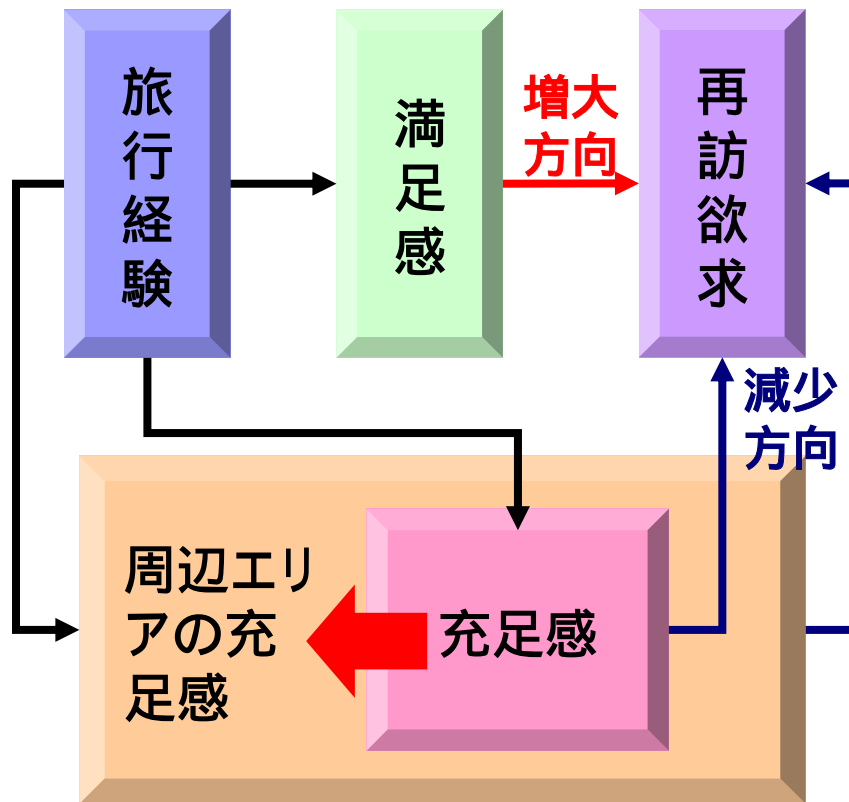


# リピート行動メカニズムの解明



- ✓ 旅行者が国に対してリピートしたと考えている場合 ~ は全てリピート来訪と考えてよいのでは？
- ✓ ある地域での満足感や充足感がいかに他の地域への期待感や再訪意向に結びつくか？

# 簡単なモデルと分析結果



日本人大学生への最近の渡航先に対するリピート来訪意向の調査から

